

●現代への疑問と不満を抱き、矛盾の解決をめざす人びとへ——ここHOWSで、真実の思考を追究しよう！

第13期後期 開講講座

11月3日(土・休) 午後1時～

戦後日本の形成と領土問題

—— 尖閣・竹島問題をとらえる現代史的視座

報告＝浅井基文（国際問題研究者）

11月10日(土) ロシア十月社会主義革命95周年記念の集い
映画『独裁者』(監督：C.チャップリン 1940年、アメリカ 125分) 上映
報告＝山下勇男（社会主義理論研究）

◆主催者あいさつ／連帯のアピール、ほか
会場＝東京・文京区 男女平等センター

1、日本国憲法の解体阻止をすべての憲法運動が！

悪夢にうなされる。石原慎太郎東京都知事、橋下大阪市長、安倍晋三自民党新総裁に至っては亡霊か。改憲モンスターが政界で幅を利かし始めた。日本国憲法は、戦後最大の危機を迎えている。憲法運動総体が明文改憲の焦点は、憲法96条の改正。と認識し始めた。当面、これとの闘いを協力・共同、そして統一戦線を形成しともに推し進めよう。

① 11月17日(土) 沖縄を憲法適用除外にする野田政権
—— 普天間・辺野古とオスプレイ
講師＝米倉外昭（新聞労連副委員長・『琉球新報』記者）

② 12月15日(土) 憲法番外地Ⅰ 橋下・維新の会
—— 壊憲マシーン「維新八策」を暴く
講師＝中村 勉（労働運動家）／新田 進（労働運動研究）

③ 12月22日(土) 憲法番外地Ⅱ 福島第一原発
—— 大震災から2年目を前にして
講師＝木田節子（福島からの原発避難者）

④ 1月12日(土) 改憲・憲法審査会を監視する
講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）

2000年から始まった「憲法調査会」、その後の「憲法審査会」その他の国会傍聴を続けている西川さんは、現在の「憲法審査会」における改憲ありきの安倍晋三自民党総裁の再登場、大阪維新の会の動き、多くの選挙民の現憲法の軽視に危機感を抱いている。西川さんは、青年学生、労働者とともに現行の不戦憲法の再確認を訴える憲法講座であることを期待している。

2、日本労働運動の再建・再生をめざして

1998年以降、14年連続して自殺者が年間3万人を超える過酷な日本社会。いじめや過労で精神疾患や死に追いやられる労働環境をいかに変えるか？そして労働組合が本来発揮すべき社会的役割とは？ 労働争議、労働相談、国鉄闘争、反原発運動のなかでの経験と未来への展望を語る。

① 12月19日(水) 労働相談からみえた労働現場
—— 東京東部労組のとどろきみから
講師＝須田光照（全国一般全国協議会東京東部労組書記長）

② 1月23日(水) 労働組合運動と反原発運動
—— 脱原発社会をめざす8・12労働者集会の成果を今後どう活かすか
講師＝遠藤一郎（全国一般全国協議会副執行委員長）

③ 3月6日(水) 日本労働運動の現状を斬る
—— 国鉄闘争の総括を手がかりに
講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）

④ (日程は、追ってお知らせします)
沖縄・宮古毎日新聞争議を闘うなかで
講師＝恩川順治（沖縄・宮古毎日新聞労働組合委員長）

3、今こそインターナショナルリズムを

世界恐慌の危機を労働者・人民の肩に転嫁し、その負担感をナショナルリズムで麻痺させる。竹島・尖閣問題でより一層それを煽る支配階級のイデオロギー攻勢が強まっている。インターナショナルリズムこそがこれに対抗するわれわれの階級意識だ。中東・韓国情勢分析、そしてチャベス大統領選の意義を中南米の革命の進展とともに解明する。

① 12月8日(土) ポリバル革命のいま
—— 中南米カリブ海諸国共同体（CELAC）の意義とその後の発展
講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）

② 1月19日(土) 大統領選挙後の韓国の状況
—— 韓国労働者階級の現状と今後の進路
講師＝蔡 萬 洙（韓国労働社会科学研究所所長） **韓国から招聘**

③ 3月2日(土) 「アラブの春」とは何だったのか？
—— その後の展開をめぐる
講師＝板垣雄三（東京大学名誉教授）

4、日朝平壤宣言10周年と日本人民の課題

日朝平壤宣言の発表から10年。日本政府はいまだに「拉致と核・ミサイル」を口実に、朝鮮民主主義人民共和国への「制裁」を継続し、高校無償化からの朝鮮学校の排除など日朝鮮人に対する差別・抑圧政策をつづけている。日本政府の弾圧の本質を暴き、日本人民のとるべき道を討論。

① 11月21日(水) 日朝平壤宣言10周年を迎えて
—— 統・拉致問題で歪む日本の民主主義
講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）

② 3月30日(土) 在日朝鮮人社会に対する攻撃の本質
—— 朝鮮学校に対する弾圧から見えてくるもの
講師＝崔 権 一（大阪朝鮮高級学校教員）

5、反原発運動強化のために

① 12月12日(水) 原子力規制委員会・原発訴訟・脱原発法
講師＝海渡雄一（弁護士・脱原発法制定全国ネットワーク事務局長）

10月3日、原子力規制委員会は、原発再稼働の判断はしないとの見解を出したが、野田政権は安全性を判断し、再稼働を認めるのは規制委の責任として再稼働の責任逃れをしている。原発建設差し止め訴訟・再稼働反対の裁判などが提起される中、最高裁は3・11事故を原発訴訟の中でどう考慮するかを話し合っている。そして、脱原発法が国会に提案された。これら3つの事柄は互いに関連しあう重要な課題である。これらの諸課題に積極的に取り組んでいる海渡弁護士の話聞き、今後の運動のあり方を考えたい。

② 3月23日(土) 『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』
—— 原発底辺労働者を描いた嗚矢的傑作喜・怒劇映画
ゲスト＝森崎 東（映画監督）〈調整中〉

③ (日程は、追ってお知らせします)
隠された内部被曝
—— 政治支配と被曝の科学
講師＝矢ヶ崎克馬（琉球大学名誉教授）

6、女性労働者の未来を築くために

—— 先人の闘いの歴史から学ぼう

野田政権が進める「税と社会保障の一体改革」で、ますます福祉が切り下げられ、女性たちは働き続けたくとも、保育施設が不十分なうえに施設の民営化が進み受益者負担の重石がかかる。このような状況を打ち破り、女性の権利擁護の闘いを進めるために共に考えよう。

① 2月9日(土) わたしの戦中・戦後
—— 付・戦後の婦人運動をふり返る
講師＝武井美子（編集者）
聞き手＝二谷利子（HOWS校務委員）

“潜在的非国民”としての戦時下の生活から戦後へ。
非正規雇用からの脱出と闘う組合への再生、戦後の婦人運動をも振り返りつつ、山川菊栄、石垣りんの両氏から受けた深い感銘と共感を語る。ここに甦る戦中・戦後80年。

② 2月20日(水) 日本軍「慰安婦」問題の法的解決を
—— 「河野談話」見直し攻撃を許さない
講師＝中原道子（VAWW-RAC「戦争と女性への暴力」リサーチアクションセンター）共同代表）

③ 3月9日(土) 国際婦人デー集会
(仮)女性の権利擁護・改憲阻止・原発撤廃のために起ちあがろう！

7、青年運動の再生・強化をめざして

いまも多くの若者は、不安定雇用、失業、貧困のなかで苦しんでいる。なぜこうした状況が広がるのか。この状況を突破するには何が必要か。このシリーズでは、理論と実践の両面から、未来を切り拓く青年運動の展望を、職場で活動に取り組んでいる青年たちと探っていく。

① 1月9日(水) 青年の貧困と失業はなぜ広がるのか
—— マルクス主義による原理的批判の視点
講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）

② 2月16日(土) 教育現場における連携を探る
—— 若手活動家によるディスカッション
発言＝藤原 晃（神奈川高教組組合員）／伊藤拓也（学校事務職員労働組合神奈川）

◎HOWS付属ゼミナール

HOWS本科生と聴講生は、有志参加による下記ゼミナールに参加できます。参加費は各ゼミ毎に別途お支払いください。

①戦後文学ゼミ

チューター＝山口直孝、松岡慶一
2000年より武井昭夫、湯地朝雄をチューターとしてはじめた戦後文学ゼミは、戦後文学を運動論の視点から捉えて検討し、文学運動の今日における再生を探ろうとする研究会です。これまで、宮本百合子、中野重治、佐多稲子、花田清輝、大西巨人、武井昭夫の仕事を取り上げたほか、戦後の文学運動の歩みを確認してきました。最近では、「花田清輝vs吉本隆明論争」、「花田清輝『近代の超克』をめぐる」、60年代の武井昭夫の仕事、浅川史「魯迅文学を読む——竹内好『魯迅』の批判的検証」などを取り上げました。2011年後期は、「戦後平和擁護運動の危機と核（原爆・原発）に向き合う文学」として大田洋子、湯地朝雄の50～60年代の仕事、武井昭夫『創造としての革命』などを取り上げました。

②群読ゼミ

世話役＝小松厚子
台本づくりから朗読まで、参加者全員による共同制作を行ないます。この作業を通じて参加者がそれぞれに歴史について、また時代状況について学習をすすめる運動です。テーマは状況に応じてアップトゥデートなものが参加者の討議によって決められます。テーマが決まったら、全員がそれぞれに感銘した文言、思いを込めた文章を持ち寄ります。それらを素材に台本づくり、演出、音楽、朗読などの分担を行ないます。こうしてできあがった作品は反戦平和や憲法擁護、民主主義と人権のための集会等で上演されます。ゼミの開催日時は協議のうえ、決定します。

- これまでの制作・作品には、次のものがあります。
- 1) いま、私たちの労働現場から——グローバル化と闘う世界の女性労働者との連帯
- 2) 私たちの戦争案内——急速に進行する戦争体制づくりに抗して
- 3) 戦争を止めよう！——あなたも・日常から・世界の女性と共に
- 4) 戦争を止めよう！Ⅱ
- 5) いま、私たちの労働現場からⅡ
- 6) 私たちはどういう社会をつくりたいのか——憲法改憲は誰のため？
- 7) 憲法改憲反対！ 忘れない 戦争責任と不戦の誓い
- 8) 共同こそ力！——壊憲を許さない
- 9) 先に起つのは君だ——戦争・失業・貧困をなくそう
- 10) 憲法と原発——目を覚ませ！ 未来の世代のために
- 11) 不安だらけの未来はほらない
- 12) 利益優先の社会はほらない——闘おう！ 未来のために
- HOWS本科生・聴講生は、経験の有無にかかわらず、どなたでも参加できます。

8、日本の短編小説を読む

講師＝立野正裕（明治大学教授・英文学）
復帰から40年を経た沖縄の過去と現在を、こんにちの沖縄文学の想像力とあわせて、文学の課題という面から掘り下げて考えたい。今期はその課題にふさわしい作家作品を選んだ。（作品は四編とも講談社文芸文庫『現代沖縄文学作品集』川村湊編に収録）（開始は午後7時からです）

- ① 11月13日(火) 大城立裕作『棒兵隊』
- ② 12月4日(火) 大城貞俊作『K共同墓地死亡者名簿』
- ③ 1月15日(火) 崎山麻夫作『ダバオ巡礼』
- ④ 3月12日(火) 目取真俊作『軍鶏』

9、HOWS文化講座

① 12月2日(日) 美術館案内「生誕100年 松本竣介展」
(世田谷美術館 11月23日～2013年1月14日)
案内＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）

② 2月23日(土) 『東日本大震災 東北朝鮮学校の記録 2011.3.15～3.20』(67分、2011年制作：コマプレス)
続編の『アフタースクール』(67分、2012年制作：コマプレス)

③ 3月16日(土) 現代走狗論
講師＝長谷川龍生（詩人）／金野正晴（自営業）

HOWS講座カレンダー 2012年度後期（11月～3月）	
11月3日(土)	開講講座 戦後日本の形成と領土問題——尖閣・竹島問題をとらえる現代史的視座 報告＝浅井基文（国際問題研究者）
11月10日(土)	ロシア十月社会主義革命95周年記念の集い 映画『独裁者』(監督：C.チャップリン)上映／報告＝山下勇男（社会主義理論研究）、ほか
11月13日(火)	大城立裕作『棒兵隊』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
11月17日(土)	沖縄を憲法適用除外にする野田政権——普天間・辺野古とオスプレイ 講師＝米倉外昭（新聞労連副委員長・『琉球新報』記者）
11月21日(水)	日朝平壤宣言10周年を迎えて——統・拉致問題で歪む日本の民主主義 講師＝高嶋伸欣（琉球大学名誉教授）
12月2日(日)	美術館案内「生誕100年 松本竣介展」（世田谷美術館） 案内＝金山明子（画家）／金山政紀（画家）
12月4日(火)	大城貞俊作『K共同墓地死亡者名簿』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
12月8日(土)	ポリバル革命のいま——中南米カリブ海諸国共同体(CELAC)の意義とその後の発展 講師＝富山栄子（国際交流平和フォーラム代表）
12月12日(水)	原子力規制委員会・原発訴訟・脱原発法 講師＝海渡雄一（弁護士・脱原発法制定全国ネットワーク事務局長）
12月15日(土)	憲法番外地Ⅰ 橋下・維新の会——壊憲マシーン「維新八策」を暴く 講師＝中村 勉（労働運動家）／新田 進（労働運動研究）
12月19日(水)	労働相談からみえた労働現場 講師＝須田光照（全国一般全国協議会東京東部労組書記長）
12月22日(土)	憲法番外地Ⅱ 福島第一原発——大震災から2年目を前にして 講師＝木田節子（福島からの原発避難者）
1月9日(水)	青年の貧困と失業はなぜ広がるのか——マルクス主義による原理的批判の視点 講師＝鎌倉孝夫（埼玉大学名誉教授）
1月12日(土)	改憲・憲法審査会を監視する 講師＝西川重則（平和遺族会全国連絡会代表）
1月15日(火)	崎山麻夫作『ダバオ巡礼』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
1月19日(土)	大統領選挙後の韓国の状況——韓国労働者階級の現状と今後の進路 講師＝蔡 萬 洙（韓国労働社会科学研究所所長）
1月23日(水)	労働組合運動と反原発運動——原発8・12労働者集会の成果を今後どう活かすか 講師＝遠藤一郎（全国一般全国協議会副執行委員長）
2月9日(土)	わたしの戦中・戦後——付・戦後の婦人運動をふり返る 講師＝武井美子（編集者）／聞き手＝二谷利子（HOWS校務委員）
2月16日(土)	教育現場における連携を探る——若手活動家によるディスカッション 発言＝藤原 晃（神奈川高教組組合員）／伊藤拓也（学校事務職員労働組合神奈川）
2月20日(水)	日本軍「慰安婦」問題の法的解決を——「河野談話」見直し攻撃を許さない 講師＝中原道子（VAWW-RAC「戦争と女性への暴力」リサーチアクションセンター）共同代表）
2月23日(土)	『東日本大震災 東北朝鮮学校の記録 2011.3.15～3.20』(67分、制作：コマプレス)／続編としての『アフタースクール』
3月2日(土)	「アラブの春」とは何だったのか？——その後の展開をめぐる 講師＝板垣雄三（東京大学名誉教授）
3月6日(水)	日本労働運動の現状を斬る——国鉄闘争の総括を手がかりに 講師＝二瓶久勝（国鉄闘争を継承する会代表）
3月9日(土)	国際婦人デー集会 (仮)女性の権利擁護・改憲阻止・原発撤廃のために起ちあがろう！
3月12日(火)	目取真俊作『軍鶏』 講師＝立野正裕（明治大学教授）
3月16日(土)	現代走狗論 講師＝長谷川龍生（詩人）／金野正晴（自営業）
3月23日(土)	『生きてるうちが花なのよ死んだらそれまでよ党宣言』 ゲスト＝森崎 東（映画監督）〈調整中〉
3月30日(土)	在日朝鮮人社会に対する攻撃の本質——朝鮮学校に対する弾圧から見えてくるもの 講師＝崔 権 一（大阪朝鮮高級学校教員）
(日程は、追ってお知らせします)	
●沖縄・宮古毎日新聞争議を闘うなかで 講師＝恩川順治（沖縄・宮古毎日新聞労働組合委員長）	
●隠された内部被曝——政治支配と被曝の科学 講師＝矢ヶ崎克馬（琉球大学名誉教授）	

《2012年度後期募集要項》

- 定員 本科生40名（10月22日(月)より募集）
- 全講座30回（各週1～2回程度）
- 本科生は、すべての講座を受講することができます。その他、交流を深めつつ講座を集中して学ぶ夏季合宿（前期）や、懇親会などの企画があります。
- ◎聴講生20名
シリーズを問わず、自由に講座が選べる12枚綴りの聴講チケットがあります。
- 費用
- ◎本科生 入学金…1万円（次期以降は不要）
受講料…前期：3万円、後期：3万円
●前期5月、後期10月の開講時までそれぞれ納入してください。
- ◎聴講生 聴講料 回数券…15,000円
●聴講料納入と引き換えに12枚綴りの聴講チケットをお渡しします。
●1回の受講料は本科より割高ですが、一般受講より割安になります。
●2012年度前期の聴講チケットは、後期にも使用できます。
- ◎一般 受講料…1,500円（各講座1回につき）
●本科生・聴講生以外の一般参加は、受付で現金にていただきます。
- 申込方法
●所定の申込用紙に必要事項を記入のうえ、入学金・受講料を添えて、直接事務局に持参、または現金書留にて郵送してください。郵便振替ご利用の際は、申込用紙を別途郵送または事務局にお持ちください。
- 注意事項
●HOWSゼミナールについては、会計が異なります。
●講師の急病等やむを得ない事情により、日程・テーマ・講師等が変更になる場合があります。